

第 28 回国立大学法人共同研究センター等教員会議に出席

(社会連携推進センター)

9月3日(木)、4日(金)の2日間、香川大学で第28回国立大学法人共同研究センター等教員会議が開催され、全国の国立大学で産学連携・社会貢献部門の教員が集まりました。

本会議は、大学の社会貢献活動の向上に向け、各大学が取り組んでいる産学官連携活動に関する情報共有と、それらを通じた産学官連携に関する課題解決に向けた議論を行うことを目的に開催されています。本学からは社会連携推進センターの有田敏彦教授が出席しました。

まず、文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課の次田彰地域支援企画官から、「産学官連携に関する諸課題と地域イノベーション推進施策」と題した基調講演が行われました。引き続き「大学として地域創生を考える」をテーマとした会議が行われ、分科会1では「地域創生における大学の役割」のテーマの下、「大学が社会から真に求められているものは何か」「その要求に応えるための体制はどのようなもの

か」について議論しました。分科会2では、「地域創生における大学関与の手法(進め方)」をテーマとし、高い必要性が指摘されている地域間ネットワークに焦点を当てて議論しました。分科会3では、「地域創生を進めるために大学はどのような組織であるべきか」をテーマとし、共同研究センター等の役割と体制の変化について議論しました。これら議論の結果は、9月17日(木)から電気通信大学で開催された「国立大学法人共同研究センター長等会議」においても報告されました。

今回の会議では、地域創生への貢献を求められる大学のこれからについて、重要な役割を担う関係者によって議論を深めていきました。そして、それぞれの職務に活かすための貴重な成果を得る機会となったばかりでなく、国や社会に対しても課題や重要な論点を発信する価値ある機会となりました。本会議での議論を、本学での活動にも活かしていきます。